“たかつき保養キャンプ”って知っていますか？

福島原発事故の被災地域に住む子どもたちのために

和太鼓部顧問・Cheers!担当教員

…東日本大震災から４年…

東日本大震災から４年が経ち、報道も減ってきましたが、今も福島原発事故による放射能汚染の被害を受けた地域に住む人たちがたくさんいます。子どもたちは、外で十分に遊ぶことができないため体力が低下したり、病気がちだったり、ストレスも大きいと伝えられています。保護者にとっても、今の悩みやこれから先の不安を感じ、ストレスをかかえながら、その気持ちをはき出せる場所がなかなかないと聞きます。

高槻・川久保での川遊び。水の冷たさに驚いていたそうです。

…保養キャンプとは…

保養キャンプとは、原発事故被災地で暮らす子どもたちやその保護者が、一定期間、汚染から離れた生活の時間を持てる機会をつくり、心と体のリフレッシュができることを目的としています。…（中略）…

たかつき保養キャンプは、2013 年の夏から始まり、この夏、３回目を開催しました。外遊びと安全で安心な食事を用意し、悩みを聞いたり、思いを共有できる場を作り、心も体もリフレッシュできるキャンプを目指しています。

「たかつき保養キャンプ・プロジェクトちらしより引用」

今城塚古墳で記念撮影

…福島第一原発近辺の汚染状況…

福島第一原発の放射能の汚染状況を見てみると（図１）、非常に広範囲に汚染が広がっていることがわかります。図１は…2011 年３月に地表に落ちた放射性物質が、そのままの状態で保存されている場所の、同年９月 11 日の放射線量を示したものです。芝生などの草地で測定される数値に相当します。アスファルト道路は、放射性物質が雨で流されたため、この地図に示した数値の４割程度で測られるのが普通です。一方、流された放射性物質が集積している雨どい・軒下・側溝などでは、この地図より何倍も高い数値が観測されます。「「放射能地図」群馬大学 早川由紀夫教授（火山の地質学が専門）より引用」…

図１・放射能の汚染状況

図２・関東のホットスポット

現在は、この図から４年も経っていますので、汚染状況はかなり変わっているとは思いますが、この広範囲に広がった汚染が、現在も残っているということは間違いありません。2011 年６月

の報道ステーションでは、図２のように福島県外でも場所によっては放射性物質が溜まる場所（ホットスポット）があり、放射能汚染がひどいことが報道されています。

　ですから、保養キャンプに来る子どもたちは、福島県に限らず、他の都道府県からも参加しているのです。

…現在の福島第一原発近辺では…

写真３・期間困難区域前の看板

写真４・震災当時のままになっている

　現在でも放射能汚染は、深刻な状況のままです。現在、２０ｋｍ圏内と一部の地区が「避難指示解除準備区域」となっていますが、（今年の９月５日に楢葉町は解除されました。）この「区域」では、未だに放射線量が高いため、夜間は人の立ち入りが禁止されています。「避難指示解除準備区域」の奥に進むと「帰還困難区域」（写真３）があり、そこから先は許可のないものは一切立ち入れないのです。（今年の７月 25 日に富岡町の「帰還困難区域」の前で測った線量は 1.76μSv/h、大阪の約 40 倍）「帰還困難区域」は年間の放射線量が高いままなので、５年以上帰還が困難とされています。（住民の方々は、これではいつ戻れるかわからないと政府から宣告されたと同じだと、怒りと絶望を感じています。）この地域は、４ 年前の震災のままの風景（写真４）が続きます。５段に積まれた黒い袋（除染した土が入っている）だけが海辺まで延々と続いたり（写真５～８）、廃材を焼却する大きな仮設焼却場（写真６，７）があちこちに建っていて、でもその街の中に人の姿はまったくない、本当に異様な光景が目の前に広がるのです。

写真５～８・海辺までのいたるところに袋が積まれており、真っ白な仮設焼却場もあちこちに建てられている。最後の写真は仮設焼却場と津波の被害にあった時のまま空き家となった家が並んでいる不思議な光景

　また、写真９は岡田光生氏（アグリ・ウォッチャー・クラブ）が今年の３月 31 日に南相馬市の原町区夜ノ森公園で撮影されたものです。このようなこともあり、住民の方々の中には、動植物にも放射能汚染の影響が出ているのでは、と不安を感じておられる方も少なからずいらっしゃいます。

写真９・桜の花のおしべに花びらが…

…屋内遊び場…

写真１０，１１・屋内遊び場で遊ぶ子どもたち（郡山市内）

原発事故被災地では２年前まで小学校の校庭で遊べる時間は１日１時間に制限されていました。現在はその制限はなくなっているそうですが、住民の不安は今も続いています。そんな子どもたちが放射能汚染を心配せず安心して遊ぶために、屋内遊び場（室内遊技場）があります。この屋内遊び場は「市営」のものも「民営」の施設もありますが、どこの施設もいつも満員で、そこで遊ぶために何時間も待たなければいけないような状況です。写真１０、写真１１は郡山市の市営の屋内遊び場“ペップキッズこおりやま”の、屋内の砂場で遊ぶ子どもたちの風景です。子どもたちがいかに不自由でストレスのたまる生活を強いられているかが、わかります。

…和太鼓部と福島の人たちとの交流…

和太鼓部は７月 23 日（木）から 27 日（日）の４日間、福島県を訪問し、原発事故によって被災し、仮設住宅で暮らしておられる方々（大熊町・富岡町）との交流や、福島県立小名浜高校の和太鼓部との交流・合同演奏会を行ってきました。

１日目は福島第一原発のある大熊町（図３参照）の仮設住宅（会津若松市内）に行って演奏をしてきました。雨の中でテントを立てての演奏となりました。２日目の小名浜高校とは１日まるまる使って、交流と合同演奏会を行いました。

図３・和太鼓部福島演奏旅行の軌跡

大熊町の人たちと演奏会後に交流

小名浜高校和太鼓部といっしょに食事

小名浜高校和太鼓部との合同演奏会

富岡町仮設住宅での演奏会・後ろに線路が見えます

富岡町仮設住宅の方たちと演奏会後の交流

３日目は富岡町の仮設住宅（いわき市内）での演奏と交流となりました。まず、昼には生徒たちが「突撃！おたくの昼ごはん」状態でそれぞれのお宅に飛び込み交流、その後、集会場で富岡町の現在の状況をビデオ映像を見ながら、

語りべの方からお話をしていただきました。語りべの方の、被災してから現在に至るまでの生々しいお話しに、生徒達は真剣に耳を傾けていました。最後に常磐線の列車が走る横で演奏会を行い、演奏会が終わってからも夜遅くまで交流が続きました。

…芥川高校とたかつき保養キャンプのつながり…

第１回Cheers!チャリティコンサート・司会進行

第２回三部合同チャリティコンサート・募金の様子

実は和太鼓部の福島演奏旅行は、『たかつき保養キャンプ』とのつながりから実現したものでした。芥川高校では、2014 年から『たかつき保養キャンプ』との関わりがあります。“Cheers！”（チアーズ・高槻と茨木の生徒会の集まり、この時のチアーズ代表は、大坂心さん〔当時の芥川高校生徒会長〕でした。）が『たかつき保養キャンプ』のためにチャリティコンサートを企画したことから始まり、2015 年からは、和太鼓部・ダンス部・軽音ロック部の 3 部合同チャリティコンサートも行われるようになりました。また、“Cheers！”の取り組みを通じて、『たかつき保養キャンプ』に、ボランティアとして参加している生徒もいます。

そして、今年７月の保養キャンプでは、『たかつき保養キャンプ』に参加した子どもたちを芥川高校に招待して、“Cheers！”・和太鼓部・ダンス部の合同企画で歓迎会を行ないました。

第３回三部合同チャリティコンサート

保養キャンプ・勉強会の様子

第３回Cheers!チャリティコンサート

芥川高校とたかつき保養キャンプのつながり・年表

2014.3　第１回 Cheers!チャリティコンサート
2014.7　保養キャンプに Cheers!参加
2015.1　第１回３部合同チャリティコンサート
2015.2　第２回３部合同チャリティコンサート
2015.3　第３回３部合同チャリティコンサート
2015.3　第２回 Cheers!チャリティコンサート
2015.7　第３回 Cheers!チャリティコンサート
2015.7　保養キャンプに Cheers!参加
2015.7　保養キャンプの子どもたちを芥川高校に呼んで、Cheers!・和太鼓部・ダンス部で歓迎会を開く
2015.8　保養キャンプ報告会実施

＊他に 2014.7 のチャリティコンサートにも Cheers!は有志として参加しました。

保養キャンプ・芥川高校での歓迎会・全員でダンス＆たこ焼きパーティ